

小林勝人訳注「孟子」(上)岩波文庫、岩波書店 1968年2月16日刊を読む

志と気力

1. いったい心のはたらきである志というものは、気力を左右するものであり、気力は人間の肉体を支配するものである。
2. だから、志がまずしっかりと確立すれば、気力はそれにつき従ってくるものだ。
3. そこで、『あくまでも志をかたく守って、気力をムダにそこなってはならぬ』と自分はいうのだ。
4. それは、志と気力とは密接な関係があって、志がひとつことに集中すると、当然気力を動かすものであるが、また反対に気力がひとつことに集中すると、逆に志を動かすこともあるからだ。
5. いま一例をあげると、急いで走ってかえって躓くのは、気力が走ることに集中しすぎたためである。
6. 気力がありすぎて心を動揺させ、かえって心のはたらきを鈍らせて躓かせたのだ。

P121 ~ 122

[コメント]

ものごとをなしとげるのに欠かせない志と気力についての孟子の考え。志が第一で、気力はそれについてくる。その通りだと思う。

— 2012年2月26日 林 明夫記 —